

旧赤松家だより

令和2年1月29日



石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓つくゑのほとりはいと静にて、熾熱燈しねつとうの光の晴れがましきも徒いたづらなり。今宵は夜毎にこゝに集い來る骨牌仲間カルタも「ホテル」に宿りて、舟に残れるは余一人のみなれば。

森鷗外の代表作「舞姫」の冒頭です。ひとり船に残る主人公の心もとなげな様子に不安がよぎり、これから展開される物語が「舞姫」との悲恋であろうことが想像されて読む人を一気に小説の世界へと引き込みます。この間、わずか3行。鷗外が天才と評されるのもうなずけます。ですが、もしこの自伝的な恋物語を執筆したのが新婚もない自分の夫だとしたら？



赤松登志子

鷗外の最初の妻である登志子は、赤松則良・貞夫妻の長女で、きちんとした教育を受けた才女であったようです。「舞姫」が発表された明治23年、登志子は鷗外と結婚して1年もたたず、しかも身重でした。碧眼美女へきがんとの悲恋が描かれた小説を、どんな想いで受けとめたのでしょうか。心中を思うとせつなく、「お嬢様が何をしたというんです？」と若き天才に詰め寄りたい気持ちになります。

内蔵1階ギャラリーでは、29日から磐田市内5校の高等学校の歴史を振り返るパネル展「磐田の中等教育」が始まります。懐かしい写真をお楽しみください。

内蔵ギャラリーのご案内

『磐田の中等教育』

開催期間：1月29日（水）～2月11日（火）

*休館日 2月3日（月）、10日（月）

開催時間：午前9時～午後4時30分

（最終日は午後2時半まで）

入場料：無料

出展者：旧赤松家記念館

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340



<展示写真から>